

連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクトの名称	芸術表現教育におけるコンピテンシー育成のためのプログラム開発に関する研究		
研究期間	平成26年4月1日～平成29年3月31日	プロジェクト記号	Q
チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）			
◎時得紀子・教授・上越教育大学	飯村諭吉・D1・上越教育大学		
平野俊介・教授・上越教育大学	島田郁子・D1・鳴門教育大学		
初田隆・教授・兵庫教育大学	遠藤好子・教諭・上越市立雄志中学校		
木下千代・教授・兵庫教育大学	小林田鶴子・教授・神戸女子大学		
小山英恵・准教授・鳴門教育大学	上原祥子・教諭 鳴門教育大学附属中学校		
赤木里香子・教授・岡山大学	小島千か・准教授・山梨大学		
永田智子・教授・兵庫教育大学	内海昭彦・教諭・新潟市立浜浦小学校		
清田哲男・准教授・岡山大学	今成満・教諭・十日町市立貝野小学校		
河邊昭子・准教授・兵庫教育大学	小町谷聖・主事・長野県総合教育センター		
桐山由香・D3・兵庫教育大学	高橋恵理子・教諭・岡山大学教育学部附属小学校		
西澤久実・D3・上越教育大学	辻政宏・教諭・岡山市立東山中学校		
プロジェクト全体の研究経過及び研究成果			
研究成果			
1. 成果出版書籍（構成員22名共著）			
<ul style="list-style-type: none"> ・『芸術表現教育の授業づくり：音楽、図工・美術におけるコンピテンシー育成のための研究と実践』 時得紀子編 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 プロジェクトQ 構成員共著、全307p、三元社、2017 			
目次			
<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに：芸術教科の豊かな表現活動を探って／時得紀子 			
【理論編】			
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術教育におけるピアノ指導の役割／平野俊介 ・自己理解・自己受容を深めるための美術教育計画モデルの検討／清田哲男 ・芸術表現教育の評価に関する一考察／永田智子 ・K.H. エーレンフォルトによる音楽を聴くことの意味：生の地平における対話と合意を促す仲介／小山英恵 ・兵庫県小学校音楽教育研究大会の公開授業にみる授業研究の動向／河邊昭子 ・大学生と児童・生徒が共に学べる環境での芸術教育／小林田鶴子 ・音楽との相互関係を結ぶ力を育てる：アフォーダンス理論による音楽科教育「転回」の視点と実践の展望／内海昭彦 ・中学校美術科における表現と鑑賞を一体化した単元モデルの構築／赤木里香子・森弥生 			
【実践編】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ことば・音・動きによる表現を取り入れた音楽づくりの実践への一考察：自己表現力育成を目指して／西澤久実 ・芸術表現教育における打楽器の活用と展望／飯村諭吉 ・創作学習の有効性：声によるふしづくりの実践から／桐山由香 ・音楽の知覚と感受を呼び起こす器楽合奏指導の工夫：ワークシートによる言語活動を手立てとして／音楽の探究を促す教師の言語活動：小学校6年器楽アンサンブルの実践を通して／郷土の音楽を教材とした音楽学習の展開：5年単元「阿波踊りプロジェクト」を成功させよう／島田郁子 ・再編教科「表現創造科」の取り組みについての再考：上越教育大学附属中学校のミュージカルづくりの実践から／遠藤好子 ・アクティブ・ラーニングの学習プロセスによる習得学習／今成満 ・中学校音楽科のマネジメント：「音楽の多様性に触れる」教材開発と「生徒のこれからに生きる」授業づくりを目指して／小町谷聖 ・子どもが造形活動の意味や価値に気付く授業づくり：個のよさを実感できる題材から／高橋恵理子 ・音楽科における社会に生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造／上原祥子 ・音楽鑑賞教育における音楽の視覚化の活用／小島千か ・「総合的・領域横断的な芸術表現教育」の指導者養成に関する実証的研究／初田隆・木下千代 ・初等教育における身体表現活動を取り入れた実践の試み：上越及び兵庫教育大学附属小学校の事例から／時得紀子 ・芸術教育を取り巻く状況と今後の展望／時得紀子 ・おわりに／時得紀子 			

本共同研究プロジェクトは初の芸術系による全構成員としてスタートしたが、最終年度、プロジェクトの主要メンバーであられた先生の急逝により、要となる指導助言者を失った。しかし、構成四大学からの新たなメンバーを得ることにより、成果を307頁の書籍に集大成することがなかった。新学習指導要領の実施を目前に控えたタイミングを得て、芸術教科の学びが、新たに生活や社会とより深くかかわる方向に転じていることを踏まえながら、技能の習得に偏らない、学習者が創って表現する活動、コンピテンシーの育成を軸とした、新たな授業づくりを目指した。

2. 研究の一環を成す主な書籍・学会誌・紀要

- ・飯村諭吉・時得紀子「初等教員養成課程の音楽指導法をめぐる実践的考察：アクティブ・ラーニングによる身体表現活動に焦点を当てて」『教育実践学論集』第18号，pp.163-171，2017.
- ・時得紀子・飯村諭吉「アクティブ・ラーニングを取り入れた音楽指導をめぐる一考察—初等教員養成における実践事例をもとに—」『THE PROCEEDINGS OF THE SIXTH JAPAN-CHINA TEACHER EDUCATION CONFERENCE NARUTO UNIVERSITY OF EDUCATION 2015』，pp.3-9，2015.
- ・Noriko Tokie “Cultivation of Twenty-First-Century Skills Through Integrated Studies : Lessons from Case Studies in Japanese Schools” Proceedings of the International Society for Music Education 32nd World Conference on Music Education Glasgow, Scotland, pp.279-284, 2016
- ・小山英恵「第7章 音楽科教育の変遷—音楽文化とはなにか」田中耕治編著『戦後日本教育方法論史（下）—各教科・領域等における理論と実践—』ミネルヴァ書房，pp.141-160，2017
- ・小山英恵「第2章 教科教育におけるアクティブ・ラーニングの位置づけ方 5 音楽科・美術科アクティブ・ラーニング—パフォーマンス課題を活用した授業&評価モデル」西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価—アクティブ・ラーニングをどう充実させるか—』明治図書，pp.66-75，2017
- ・清田哲男「創造性が社会と出会う美術教育のためのカリキュラム到達度指標の研究—ユニバーサルデザインの概念を基軸とした学びからの広がり—」『美術教育学研究』，第49号，pp.137-144，2017
- ・小島千か「造形活動およびその作品を仲立ちとした音楽の理解—音楽聴取から音楽づくりへ—」、『音楽表現学』第14巻，pp.19-28，2016
- ・河邊昭子「音楽科授業に対する教職大学院生の課題意識」、『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第62巻，pp.618-623，2017
- ・Rikako Akagi, Kenji Yamaguchi, “Drawing Education in the Late 19th Century: The Case of Japan” *Lernt Zeichnen! :Techniken zwischen Kunst und Wissenschaft:1525-1925*, Dietmar Klinger Verlag, Passau, Germany, pp.151-167, 2015
- ・小林田鶴子「「サウンドエデュケーションのヒント—NHK アーカイブス学術利用トライアル研究をベースとして—」」、『音楽教育メディア研究』第1巻，pp.27-31，2015
- ・時得紀子，金子謙太郎，飯村諭吉「初等教育における身体表現活動をめぐる一考察：上越及び兵庫教育大学附属小学校の実践から」、『上越教育大学研究紀要』第35巻，pp.325-335，2016.
- ・小山英恵「C.リヒターの『音楽の教授学的解釈』—K.H.エーレンフォルトの理論との相違に着目して—」、『鳴門教育大学研究紀要』第32巻，pp.150-160，2017
- ・小島千か「旋律聴取を促す教材選択の視点—造形表現を関連させた活動を通して—」、『山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要』，第20巻，pp.115-126，2015

主な学会発表

- ・時得紀子「21世紀型スキルを培う音楽活動—日本の小学校における実践をもとに—（邦訳）」於：香港教育学院第10回国際音楽教育学会 アジア大会，2015.7
- ・桐山由香「声によるふしづくりIV」日本学校音楽教育実践学会 第21回全国大会 於：北海道教育大学，2016.8
- ・島田郁子「学習活動の有機的構成に着目した音楽科単元学習に関する一考察—小学校4年単元 日本の旋律に親しみ味わおうの実践—」日本教科教育学会 2016.10
- ・内海昭彦「アフォーダンス理論がもたらす音楽教育の『知の転回』—J. J. ギブソンの生態心理学の実践への応用で見えてきたこと」日本音楽教育学会 第47回全国大会（横浜大会），2016.10

3. 小・中学校・大学・地域における主な活動

- ・研究初年度，上越教育大学附属小の全校音楽集会で発表される合唱，クラス毎のダンスパフォーマンスなど，舞台制作の諸活動，及び上越教育大学附属中学校3年生による創作ミュージカルの合唱，ダンス，演劇，舞台制作等の活動場面への参与観察を経て，活動を支援すると共に成果等を発信した。
- ・研究2年次には，ニューヨークを拠点に国際的に活躍するダンサー兼振付師，中澤敏彦氏を迎え，上越教育大学，同附属小・中学校，上越市地域センターにて児童，生徒，学生，教員，社会人を対象としたダンスワークショップ及び，講演会を実施した。（下記参照）
- ・小・中・高校で必修化された「ダンス」は，音楽，舞台芸術と深く関わる表現活動であり，プロジェクト構成員である音楽・美術のメンバーで企画実行した。講演者のダンス技能のみならず，その講話から世界に向けて挑戦する姿勢，夢に向かって走り続ける生き方を伝えることを趣旨とした。
ダンス実演，ワークショップ及び講話：NY在住ダンサー・振付師 中澤敏彦氏
演題：ダンスパフォーマーとして生きる ～夢に向かって走り続ける～

実施場所，日程，対象者 いずれも2015年実施

- ・上越教育大学附属中学校 体育館（6月1日） 中学3年生3クラス対象
- ・上越教育大学 講堂（6月3日） 地域の方々・学部生・院生・教職員対象
- ・上越教育大学附属小学校 体育館（6月4日） 小学5・6年生（各2クラス計4クラス）対象
- ・兵庫教育大学附属小学校 体育館（6月25日） 小学5・6年生（各2クラス計4クラス）対象
- ・上越市民プラザ ダンス室2室（6月30日） 初級・中級・上級クラス 地域の方々対象
地域の方々を対象としたワークショップでは，5～59歳まで200名以上の参加を得た。児童・生徒・学生・社会人の方々，取り分けダンス必修化に伴って現職教員らの参加も多数見られた。

4. 主な調査活動の展開

- ・兵庫教育大学附属小でのダンスワークショップ(2015)を経て，6年生3学級99名を対象とし，振り返り討論への授業観察及び分析を実施した。（永田智子・時得紀子）・同年9月に実施された，同小学校伝統行事である体育祭「うれしのカーニバル」での創作ミュージカルの映像を基に構成員による分析を加えた。（撮影：桐山由香）
- ・時得紀子は音楽科における創作（Creative Music Making）の実践事例を北米の小・中学校及び，豪州シドニー大学音楽教育プログラム等から収集(2015，2016)，比較考察と共に我が国におけるプログラム開発に携わった。
- ・赤木里香子は台湾東海岸，花蓮（かれん）を拠点として調査活動を実施し(2015)，美術（図工）学習活動におけるコンピテンシー育成に資する情報収集と分析を経て，美術学習活動のプログラム開発に取り組んだ。